

前なる人よ立つ勿れ
勝負は誰も見たさなり

庭にうゑたる梅さくら

花の兄なる梅の花

咲きたる下にて手をひきて

皆諸共に楽しまん

後の者も見ゆるやう

根方をふむな技折るな

花の妹なる櫻花

皆諸共に遊ばなん

海邊の夕ぐれ

いざり火

夕日落ち行く海の末

オレンジ匂ふくもの色

浪のうねく影うすし

沖よりおくるすゝ風を

軽さ袂にはらませて

をちこちあさる濱傳ひ

貝拾ふ子も今は去りて

汀の小さいわらふなみ

磯馴松の枝のうなり

調べおかしく聞ゆなり

潮路も見えぬ夕霧に

見えみ見はすみ薄くこく

海をわやどる島山を

見いる向ふの岩かげに

小舟掉さし父も子も

うたう船うた勇ましく

浪のまにまに聞ゆなり

うらの苦屋に只ひとり

我春我子の歸る路を

照さんどてか焚く松明も

海には家路急ぐ父と子

くがにはふなぢ思ふ母

かたみに寫す暮の色

打見るはま邊染なせり

日は暮れに見海は暮し

月は未だ出ぬ宵やみの

岩打つ浪も音すごく

吹き來る風の身にぞしむ

友に別るとて

東条子

今宵別れの思ひ出と

君がかなつるキオリンの

糸の調は絶ゆるども

名残はつきじとこしへに

月かげ

小林恒子

涙はらひてのる船の

けふりもくろき海の上に